

23年設備投資は 7割超が実施 実施内容は 「効率化」が最多

—農業景況調査(2024年1月調査)—

農業における設備投資の実施状況と、今後3年間で重点的に取り組みたい事項について調査しました。

設備投資の実施状況

23年は稲作・畑作で7割超実施

農業全体では2023年に設備投資を「実施した」とする割合は74.5%となりました^{図1}。業種別では都府県での稲作が78.5%と最も高く、次いで畑作が77.9%、北海道での稲作が77.2%となりました。

他方で割合が低かった業種としては、ブローイラーが59.8%と最も低く、次いで茶が61.5%、キノコが65.3%となりました。次に、実施した設備投資の種類としては、農業全体では「効率化投資」が39.8%と最も高く、次いで

2023年に設備投資を実施した割合は74.5%、24年に設備投資を実施予定の割合は48.9%となりました。

備投資の種類としては「効率化投資」とする割合が最も高く、設備投資の内容は「農機具・機械装置」が大部分を占める結果となりました。

「更新投資」が34.7%、「拡大投資」が26.4%となりました。

また業種別では「効率化投資」について畑作が49.0%、露地野菜が46.1%、都府県での稲作が45.5%と、土地利用型農業を中心に4割を超えました。

また「更新投資」が最も高い割合となった業種もあり、それぞれ施設花きで43.0%、キノコが34.7%、北海道での酪農が35.6%、都府県での酪農が37.4%、養豚が46.1%、採卵鶏が38.0%、ブローイラーが34.8%となりました。

「拡大投資」については果樹が37.4%、肉用牛が32.5%と最も高くなりました。

次に23年に実施した設備投資の内容としては、全業種で「農機具・機械装置」が最も高くなりました^{図2}。その他、北海道での稲作と都府県での稲作を比較すると、北海道での稲作では「農地などの取得」、都府県での稲作では「農地などの賃借」が高くなっており、地域における農地流動化の事情の違いが見て取れます。

24年の投資予定は約半数

2024年に「設備投資予定あり」とする比率は前年の45.0%から3.9ポイント上昇し、48.9%

となりました^{図1}。

特に耕種では、都府県での稲作が54.4%、畜産では養豚が56.9%と、最も高くなりました。

一方、北海道での酪農が34.5%、肉用牛が37.9%、ブローイラーが38.9%と、4割を下回った業種もありました。

24年に実施予定の設備投資の種類については、農業全体では「効率化投資」が57.3%と最も高く、次いで「更新投資」が46.3%、「拡大投資」が32.9%となりました。

また業種別では「効率化投資」について畑作が68.6%、露地野菜が65.4%、茶が63.4%と、耕種農業を中心に割合が高くなりました。

一方で「更新投資」が最も高くなった業種もあり、それぞれ施設花きが50.6%、キノコが60.0%、酪農(都府県)が50.9%、養豚が63.4%、採卵鶏が59.3%となりました。また、「拡大投資」については肉用牛で57.3%と最も高くなりました。

また、24年に実施予定の設備投資の内容としては、農業全体においては「農機具・機械装置」が64.9%と最も高く、次いで「建物・ハウス・構築物」が29.9%となりました^{図2}。

◆ 7割超が投資済み、2024年は半数弱が投資予定

図1 設備投資の実施状況（2023年実績と2024年の実施予定、業種別、複数選択）

業種区分	時期区分	実施（予定）割合	設備投資の種類				
			効率化投資（能力アップ、省力化など）	更新投資（同等のものへの買い替え）	拡大投資（土地・家畜・果樹など含む）	新作目や新事業への投資	SDGsに向けた投資
農業全体	23年実績	74.5	39.8	34.7	26.4	10.5	3.4
	24年予定	48.9	57.3	46.3	32.9	13.9	4.8
稲作（北海道）	23年実績	77.2	41.2	39.4	30.8	7.2	2.0
	24年予定	46.8	52.1	51.0	31.8	6.6	1.7
稲作（都府県）	23年実績	78.5	45.5	37.9	26.3	9.8	3.4
	24年予定	54.4	59.1	50.9	28.5	11.1	4.5
畑作	23年実績	77.9	49.0	35.7	23.1	8.0	2.5
	24年予定	51.7	68.6	42.6	25.0	9.3	2.9
露地野菜	23年実績	77.0	46.1	30.0	28.4	13.3	3.4
	24年予定	52.6	65.4	36.2	31.9	19.2	5.1
施設野菜	23年実績	73.7	36.6	33.9	25.0	13.9	4.3
	24年予定	46.6	56.4	42.1	32.5	24.6	4.3
茶	23年実績	61.5	34.9	23.9	23.9	11.9	3.7
	24年予定	40.6	63.4	34.1	19.5	19.5	7.3
果樹	23年実績	73.8	34.2	26.5	37.4	19.8	4.3
	24年予定	51.5	55.3	34.0	41.5	25.0	5.9
施設花き	23年実績	76.7	36.3	43.0	14.5	18.7	3.1
	24年予定	46.6	49.4	50.6	24.1	19.5	5.7
キノコ	23年実績	65.3	26.7	34.7	17.3	9.3	8.0
	24年予定	51.9	52.5	60.0	32.5	12.5	5.0
酪農（北海道）	23年実績	68.6	33.3	35.6	19.9	4.2	5.7
	24年予定	34.5	51.7	40.2	36.8	12.6	4.6
酪農（都府県）	23年実績	65.9	23.8	37.4	24.9	7.7	0.7
	24年予定	41.8	49.1	50.9	39.5	12.3	3.5
肉用牛	23年実績	66.8	30.1	26.2	32.5	5.2	2.4
	24年予定	37.9	48.7	46.2	57.3	6.0	5.0
養豚	23年実績	77.0	37.3	46.1	24.4	5.5	5.1
	24年予定	56.9	49.6	63.4	31.7	8.1	11.4
採卵鶏	23年実績	68.6	32.2	38.0	16.5	11.6	4.1
	24年予定	48.4	52.5	59.3	28.8	8.5	5.1
ブロイラー	23年実績	59.8	29.3	34.8	16.3	4.3	3.3
	24年予定	38.9	51.4	51.4	28.6	8.6	5.7

◆ 投資実績・予定ともに「農機具・機械装置」が最多

図2 設備投資の内容（2023年実績と2024年の実施予定、業種別）

業種区分	時期区分	農機具・機械装置	建物・ハウス・構築物	農地などの取得	農地などの賃借	トラックなど車両	果樹・家畜	システム/ソフトウェア	その他
農業全体	23年実績	73.1	26.0	20.8	16.2	19.6	7.7	7.0	9.4
	24年予定	64.9	29.9	17.6	12.4	16.0	6.4	5.3	14.6
稲作（北海道）	23年実績	84.1	16.7	36.4	7.6	16.9	0.0	4.2	6.8
	24年予定	77.3	15.2	25.9	8.5	8.2	0.7	2.1	10.3
稲作（都府県）	23年実績	85.6	18.3	19.0	24.2	16.5	1.4	4.9	8.5
	24年予定	76.8	21.5	16.3	16.0	14.0	0.9	3.6	14.7
畑作	23年実績	86.9	14.1	23.2	14.6	16.0	0.2	6.3	5.7
	24年予定	79.6	14.1	17.8	8.6	15.1	0.7	5.3	11.8
露地野菜	23年実績	77.6	25.6	22.5	19.5	21.6	1.1	7.1	8.2
	24年予定	63.4	32.1	19.4	16.1	18.8	1.9	6.9	13.9
施設野菜	23年実績	54.5	48.4	15.3	16.0	20.9	2.3	10.4	11.9
	24年予定	51.4	50.7	16.7	16.7	16.7	1.4	7.6	17.8
茶	23年実績	67.7	16.9	15.4	18.5	26.2	6.2	9.2	9.2
	24年予定	64.3	9.5	11.9	14.3	19.0	2.4	4.8	16.7
果樹	23年実績	56.9	32.8	23.0	18.2	16.8	31.8	8.0	13.9
	24年予定	44.0	39.0	14.3	13.7	15.4	25.3	6.0	18.1
施設花き	23年実績	53.4	41.8	11.6	10.3	17.1	2.1	11.0	15.1
	24年予定	51.1	40.9	13.6	9.1	15.9	0.0	10.2	15.9
キノコ	23年実績	60.4	33.3	10.4	6.3	20.8	6.3	4.2	16.7
	24年予定	64.1	38.5	15.4	5.1	25.6	0.0	5.1	15.4
酪農（北海道）	23年実績	69.3	24.0	21.8	8.9	16.8	7.8	5.0	11.2
	24年予定	54.2	28.9	19.3	8.4	13.3	8.4	6.0	19.3
酪農（都府県）	23年実績	63.5	17.4	16.9	18.0	17.4	27.5	5.1	12.9
	24年予定	63.3	30.3	15.6	5.5	17.4	24.8	2.8	9.2
肉用牛	23年実績	62.3	24.9	19.6	10.9	23.7	37.2	6.1	8.1
	24年予定	45.6	37.8	20.2	9.3	19.7	33.2	2.6	15.0
養豚	23年実績	53.3	50.3	16.8	4.2	34.1	17.4	10.8	7.8
	24年予定	50.9	53.4	12.1	6.0	27.6	12.1	6.9	16.4
採卵鶏	23年実績	57.8	51.8	12.0	1.2	28.9	7.2	9.6	13.3
	24年予定	55.2	44.8	6.9	6.9	24.1	6.9	13.8	12.1
ブロイラー	23年実績	61.8	43.6	14.5	3.6	29.1	1.8	12.7	5.5
	24年予定	44.4	47.2	16.7	2.8	13.9	5.6	8.3	19.4

◆ 耕種・畜産いずれも「効率化への設備増強」の合計が最多

図3 今後3年間で重点的に取り組みたいこと(耕種・畜産・業種別)

業種区分	順位	効率化への設備増強	人材確保	生産規模の拡大	人材育成	新たな生産技術導入	加工・販売への取り組み	新品種・畜種導入	SDGsに向けた取り組み	農業関連以外の事業	その他	現状維持	事業の縮小
耕種	第1位	19.1	14.3	27.2	5.7	4.6	6.3	3.9	0.4	0.7	0.7	15.4	1.4
	第2位	19.6	16.2	7.7	12.1	12.0	6.9	6.7	1.0	1.1	0.3	5.3	1.2
	第3位	12.5	9.1	6.4	9.8	14.5	4.3	6.3	2.8	2.4	0.9	9.5	2.1
	合計	51.2	39.7	41.3	27.6	31.2	17.6	16.9	4.3	4.3	2.0	30.1	4.7
畜産	第1位	17.7	14.5	22.6	7.2	2.2	4.1	4.4	0.4	0.7	0.8	22.4	2.9
	第2位	16.5	16.3	5.9	15.5	7.2	4.1	4.8	2.2	1.3	0.6	7.8	2.2
	第3位	12.5	8.1	5.5	11.1	7.6	2.5	3.9	4.0	2.5	0.9	10.2	1.5
	合計	46.8	38.9	34.0	33.8	17.1	10.8	13.2	6.7	4.5	2.3	40.3	6.5
稲作(北海道)		53.7	27.9	45.0	15.8	44.9	9.3	13.5	3.9	3.6	2.4	37.2	7.0
稲作(都府県)		52.7	41.9	46.5	30.1	28.2	15.1	12.9	4.6	3.0	1.5	27.3	3.9
畑作		59.0	30.9	46.2	17.1	43.0	10.3	19.3	4.7	3.3	2.2	32.9	4.5
露地野菜		52.4	42.3	45.6	28.3	29.3	19.6	13.4	2.7	5.7	1.8	29.1	4.4
施設野菜		46.0	42.4	33.2	32.7	28.1	25.6	18.1	4.3	6.5	2.3	30.7	3.3
茶		37.1	35.2	24.8	28.6	15.2	33.3	16.2	4.8	10.5	2.9	38.1	7.6
果樹		44.5	52.6	30.7	31.0	24.3	29.1	30.5	5.7	4.6	1.6	25.1	3.8
施設花き		43.2	41.1	17.4	35.3	28.4	13.7	34.7	3.2	3.7	5.3	34.7	8.4
キノコ		54.1	40.5	29.7	39.2	17.6	32.4	14.9	5.4	6.8	1.4	18.9	4.1
酪農(北海道)		51.8	35.8	31.9	28.0	22.2	8.2	8.9	10.9	5.8	3.9	44.7	9.3
酪農(都府県)		45.6	32.8	35.4	25.2	20.4	8.8	14.2	4.4	4.7	1.5	48.9	4.4
肉用牛		39.6	34.1	36.9	30.8	16.2	10.3	20.7	6.0	3.9	2.4	39.7	9.0
養豚		57.5	43.4	37.4	44.3	16.9	13.7	8.7	7.8	3.2	1.8	30.1	3.7
採卵鶏		46.3	56.2	22.3	48.8	5.8	19.0	2.5	7.4	6.6	2.5	34.7	4.1
ブロイラー		53.8	40.9	29.0	36.6	21.5	5.4	2.2	3.2	4.3	0.0	44.1	3.2

◆ 経営主の年齢が低いほど「効率化」「規模拡大」への意欲高い

図4 今後3年間で重点的に取り組みたいこと(経営主年齢区分別)

経営主年齢区分	効率化への設備増強	人材確保	生産規模の拡大	人材育成	新たな生産技術導入	加工・販売への取り組み	新品種・畜種導入	SDGsに向けた取り組み	農業関連以外の事業	その他	現状維持	事業の縮小
全体	50.2	39.7	39.6	29.3	27.6	16.2	16.0	5.0	4.5	2.1	32.2	5.1
49歳以下	56.6	39.8	47.3	29.8	29.5	19.5	14.9	5.1	6.1	2.1	26.4	2.7
50～59歳	52.9	38.8	39.2	28.0	29.9	15.1	18.5	4.8	4.8	2.5	34.4	4.5
60～69歳	47.2	39.8	36.4	28.0	26.9	14.3	17.5	5.1	3.5	1.8	33.7	6.7
70歳以上	39.7	40.9	31.0	31.6	22.2	15.0	11.7	4.9	2.8	1.7	37.3	7.5

◆ 「スマート農業」への関心が最多

図5 関心がある取り組み(業種別)

業種区分	スマート農業	事業承継	耕畜連携	有機農業	輸出・海外展開	HACCP・GAPなど認定
農業全体	54.2	33.9	22.4	19.8	13.5	10.2
稲作(北海道)	70.4	28.3	19.6	18.6	12.7	5.0
稲作(都府県)	60.8	37.2	19.5	25.8	12.0	8.4
畑作	74.0	29.7	18.1	15.8	7.5	6.4
露地野菜	58.0	26.5	16.2	26.1	10.6	15.1
施設野菜	55.3	33.9	8.9	23.0	17.9	14.1
茶	34.8	31.5	4.3	41.3	28.3	12.0
果樹	54.8	41.8	4.9	20.5	19.3	8.6
施設花き	50.6	43.8	3.1	13.1	15.6	3.8
キノコ	47.0	40.9	4.5	21.2	18.2	18.2
酪農(北海道)	44.9	27.5	39.4	16.9	6.8	14.0
酪農(都府県)	31.1	38.3	58.3	8.9	5.1	6.0
肉用牛	28.7	31.6	54.9	8.4	22.8	8.6
養豚	34.4	33.3	47.4	4.2	7.8	19.8
採卵鶏	23.3	34.0	35.0	6.8	22.3	28.2
ブロイラー	40.3	51.9	24.7	3.9	3.9	2.6

業種別では、養豚とブロイラー以外の業種で「農機具・機械装置」が最も高くなりました。養豚およびブロイラーについては「建物・ハウス・構築物」が最も高く、それぞれ養豚が53・4%、ブロイラーが

重点的に取り組みたいこと

「生産規模の拡大」が最多

今後3年間で取り組みたいことの優先度が最も高い、すなわち第1位の取り組みは耕種と畜産ともに「生産規模の拡大」となっており、耕種が27・2%、畜産が22・6%となりました(図3)。

第1位から第3位までの回答を積み上げた割合は、耕種では「効率化への設備増強」が51・2%と最も高く、次いで「生産規模の拡大」が41・3%、「人材確保」が39・7%の順となりました。また、畜産では「効率化への設備増強」が46・8%と最も高く、次いで「現状維持」が40・3%、「人材確保」が38・9%の順となっています。

畜産において「現状維持」とする割合が高くなっているところに、原材料高騰などの影響で業界全体として厳しい経営環境に置かれて

47・2%となりました。

「農地等の取得」は、北海道での稲作が25・9%と他の業種と比較して高く、次いで肉用牛が20・2%となり、酪農は稲作、畑作などの耕種と同水準となりました。

いる様子が見て取れます。

業種別では、耕種においては茶、果樹以外の業種では「効率化への設備増強」とする割合が高くなっています。また、果樹では「人材確保」が52・6%と最も高く、茶では「現状維持」が38・1%と最も高くなりました。

次に、畜産では「効率化への設備増強」について北海道での酪農が51・8%、養豚が57・5%、ブロイラーが53・8%と最も高くなりました。採卵鶏では「人材確保」が56・2%と最も高くなりました。

「人材育成」とする割合は養豚が44・3%、採卵鶏が48・8%と、他業種と比べて高くなりました。

「現状維持」とする割合は都府県での酪農が48・9%、肉用牛が39・7%と最も高くなっています。

取り組み内容は年齢で異なる

今後3年間で重点的に取り組みたいことを経営主の年齢別に見ると、経営主年齢区分が低いほど「効率化への設備増強」「生産規模の拡大」とする割合が高くなる傾向がありました(図4)。また、経営主年齢区分が高いほど「事業の縮小」が高くなり、「人材確保」とする割合は経営主年齢区分による差がないことがわかりました。

次に、関心がある取り組みを業種別および経営主年齢別に聞いてみると、農業全体では「スマート農業」が54・2%と最も高く、次いで「事業承継」が33・9%となりました(図5)。

また業種別では、茶では「有機農業」が、ブロイラーを除く畜産では「耕畜連携」が他業種と比べて高くなりました。

また、経営主年齢区分別に見ると年齢区分が低いほど「スマート農業」、経営主年齢区分が高いほど「事業承継」が高くなる傾向が見て取れます(図6)。

結果の詳細は日本公庫ホームページで掲載しています。

農業景況調査



F

(情報企画部 高田 圭介)

◆ 年齢が低いほど「スマート農業」、高いほど「事業承継」に関心

図6 関心がある取り組み(経営主年齢区分別)

経営主年齢区分	スマート農業	事業承継	耕畜連携	有機農業	輸出・海外展開	HACCP・GAP等認定
49歳以下	62.5	13.9	26.7	20.1	17.7	13.5
50～59歳	59.3	30.0	21.1	17.4	13.8	10.1
60～69歳	47.7	48.5	20.7	19.1	11.6	8.3
70歳以上	41.5	53.4	19.0	24.5	7.9	6.8

【農業景況調査／調査概要】

● 調査時点

2024年1月

● 調査方法

調査票による郵送アンケート及びインターネット調査

● 調査対象

スーパーL資金／農業改良資金融資先計2万2291先

● 有効回答数

6947先(回収率31・2%)